

オーナーblog 第23話 「いくせい流の医療」 (2024.12.20.)

『有るものを活かす』『天賦の才を開花させる』が、いくせい塾の理念である。昨年度までの13年間、そのシステムとオリジナル教材を、宮本武蔵が人生で学んだ極意を「五輪の書」で完成するように、ひたすらにデジタル化してきた。

本年度より、その大半を医療に集中できるようになったとき、3つのofferがあった。いずれもドクターの体調不良による代行業務である。

透析、訪問、施設の外来を追加することになり、担当患者数は360名まで膨れ上がった。

いくせい流は、「できないと不満を漏らさず、どのようにすればできるか」を考える。どうせするのだから、**質を高め、いかに楽にするか工夫する方が皆のためにもなる**。ドクターの復帰により代行は終了したが、**まじめに勤勉な姿勢**は、**経営陣の必要とする人材**のようで、大規模私立病院常勤やクリニック院長としての依頼を重ねていただいている。

Ikusei-ism を体得した卒業生たちが、社会に必要とされているのは当然である。理由は明白で、**社会で必要とされる人材になれる**ようにシステムを創り上げたからである。

塾という青少年対象の業務であるが、**医療界においても通用する**ことを証明できたことは、保護者の皆さんに知ってもらいたい限りである。

来年度より担当患者数は500名になり、一人のドクターとしては挑戦の状況になる。いくせい流は、**できるという立場で思考を展開**する。今までのように、できるだけ独力でするには限界になるだろう。**他者の力を借りる在り方**への転換を覚悟しなければならない。